

令和元年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	2年生は「書く」力が高い。3・4年生は「書く」力が高いが「読む・聞く」力が低い。5年生は「読む」力はあるが「書く」力が低い。6年生は「関心・意欲」が特に低く、他の内容・観点も低い。
社会	5・6年生ともに、「資料を読み解く」力が高いが「思考・判断・表現」力は低い。
算数	2年生は学習意欲が低く、全体的に正答率も低い。3年生は、全体的に正答率が高いが文章問題が苦手である。4年生は計算ミスが多い。5年生は観点別にみると正答率が高いが、区平均を下回る設問が4問(後述)ある。6年生は、小数・分数の計算や図形の問題の正答率が低い。
理科	4年生は全観点で正答率が高いが、植物に関する知識はやや不足している。5年生は「思考・表現、知識・理解」の観点で正答率が低い。6年生は「関心意欲態度」「観察実験の技能」の観点で正答率が低い。

本校の教育目標
① よく考える子《知》 自ら考え、すすんで学ぶ子 ② 助け合う子《徳》 自分も相手(友達)も大切にして認め合い、協力する子 ③ たくましい子《体》 心も体も健康で、粘り強く取り組む子

本校が児童に育成したい力
①確かな学力 (知識・理解、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性の育成) ②命と人権を守る心 (人権感覚の醸成、思いやり・譲り合い・助け合いのできる人間関係づくり、あいさつ・返事・言葉づかい) ③心身の健康と粘り強く取り組む態度 (体力強化、よい姿勢の習慣化)

学力向上にかかわる経営方針
<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の共通指導とその徹底 ・「ねらい・見通し・振り返り」を明確にした学習過程の徹底。 ・分かりやすい発問・板書 ・言葉で伝え合う力を育てる、対話や話し合い活動の工夫 ・言語活動の充実 ・基本的学習内容の定着85%達成

校内における学力向上推進体制
○少人数授業の計画的な実施 ○指導体制の充実 ○授業力を高める教職員の研修の充実 ○長期休業中の学習教室 ○朝の時間の「算数タイム」「朝学習」「朝読書」 ○「学力フォローアップ教室」の実施 ○1～4年のモジュール学習

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○基礎的・基本的な内容が確実に身に付くように、繰り返し学習や少人数指導などの工夫をする。 ○自ら考え、解決できる力を形成するため、問題解決の機会を増やす。 ○「伝え合う」言語活動の充実を図る。 ○学力PU講師・学級経営支援員、学生ボランティア等を活用し、個に応じた指導を充実する。	○火曜日の朝に算数タイムの時間を設定し、反復練習を行い、算数の基礎・基本の習熟を図る。 ○金曜日に朝読書の時間を設定し、学習の基盤となる集中力や言語力・思考力の育成を図ると共に読書活動の充実を図る。 ○週4回、各15分間のモジュール学習時間を設け、主に1～4年生の国語の基礎学力定着を図る。(5・6年生は外国語活動)	○テーマを「自分の思いや考えをもち、進んで人とかかわる児童の育成～対話的な活動の工夫を通して～」とし、「算数、道徳、音楽、図画工作」の4教科での授業改善を推進する。授業に対話的な学習を設定し、その指導を工夫することにより、自分の思いや考えをもち、進んで人とかかわろうとする児童を育成することを目指す。	○児童の学びを具体的な姿から見取り、その過程でしっかり価値付けたり励ましたりする。 ○日常の授業で小テストや座席表などの補助等を活用した個別の評価をつみ重ねる。 ○「適正な評価の実施」や「個人内評価の活用」などを通して、指導と評価の一体化を推進する。	○家庭学習の定着や地域ボランティア(田植え、地域行事、お話し会、読み聞かせ)の活用をさらに推進する。 ○交流教育、土曜公開、ホームページの更新、保護者会等で、児童の学習活動の様子を周知する。 ○学校評議員およびPTA、児童館・学童クラブ等関連機関との連携を深める。